

31 対決！バケツリレー

地域の防災訓練などでもよく実施されているバケツリレーですが、ただバケツリレーを行うのではなく、早く水槽に水を貯める競争をチームに分かれて行います。



災害時にみんなで協力することの重要性を学び、助け合いの心を養います。

低/高
小学校低学年、
小学校高学年

実技

屋外

40分

時間軸

実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

1 事前準備

- 1 水源（水槽や水道など）を用意します。
- 2 バケツを用意します。

2 導入（5分）

- 1 阪神・淡路大震災では、神戸市内でたくさんの火災が発生し、消防隊だけでは消火できませんでした。そこで、市民によって各地でバケツやゴミ箱などを利用したバケツリレーによる消火活動が行われました。また、関東大震災など過去の大きな地震でも、市民が協力してバケツリレーを行い、初期消火に成功した例が多く記録に残されています。
- 2 上記を説明することにより、バケツリレーの必要性を理解してもらいます。



まず、子どもたちだけで水を貯めてみます。

3 バケツリレーの実施（30分）

⇒資料31-1

まず自由にやらせます。

- 1 子どもたちをグループ分けし、水を貯める競争を開始します。リレーにならなくても、自由な方法で水を貯めさせます。
- 2 全校児童で実施する場合やクラス単位で実施する場合など、その規模に合わせてグループ分けをして並ばせます。

正しい方法を説明

- 1 次に有効なバケツリレーの方法を以下の手順で説明します。（資料 31-1 参照）
- 2 まず2列になって、水が入ったバケツが運ばれる列と空になったバケツが運ばれる列に分けます。
- 3 入れる水の量は、バケツ全体の6割程度が効果的です。
- 4 水の入ったバケツを横の人に渡すときは、必ず掛声をかけるとよいでしょう。

正しい方法で実施

- 1 再度、バケツリレーで競争します。
- 2 実施にあたっては、バケツを振り回したり、水を入れすぎたり、きちんと渡さずに手を離したりしないように注意を行います。



正しいやり方の説明を受ける



正しい方法でバケツリレーを実践！

4 まとめ（5分）

- 1 最初の方法と2回目の方法について、どちらが有効だったか、感想を聞きましよう。
- 2 最後に、消防署の方などから講評をします。

指導ポイント

一人ひとりがバラバラに動くのではなく、協力し力を合わせると有効な活動ができることを学ばせる工夫が重要です。

自主防災組織の関わり方

バケツリレーの指導などをお願いします。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 資料「バケツリレーの方法」	人数分	資料31-1（配付用）
<input type="checkbox"/> バケツ	必要数	
<input type="checkbox"/> その他水を運べるもの（必要時のみ）	必要数	
<input type="checkbox"/> 水槽（水源用）	1	消防署か消防団で用意
<input type="checkbox"/> 水槽（貯める用）	1	消防署か消防団で用意
<input type="checkbox"/> 台車	1	
<input type="checkbox"/> ホース（水源用水槽に水を貯める）	1	

このメニューに関する+αの知識

- 1 阪神・淡路大震災では、バケツに限りがあったため、水を運べるものを集めてバケツリレーを行いました。被災者の方に「バケツリレーではなく、ゴミ箱リレーだった」という方がいるほどです。
- 2 バケツリレー方式は、消火水を運ぶだけでなく、様々な物資の運搬に活用できます。高層階に救援物資や水を運んだり、崩れた家屋から大量の瓦礫を運び出す場合などです。

ひと工夫

バケツのみではなく、水の運搬に使えるものを集めて使用すると、いろいろなものを臨機応変に活用できることが学べます。（ポリバケツ、ゴミ箱、レジ袋、洗面器など。）

子どもたちの声

- ・バケツリレーが重かったです。
- ・災害が起こったときは近所の人と協力して、人を助けたいです。
- ・もっとすばやく消さないと大きな被害になるからもっと訓練したいです。
- ・協力することは大切だと思った。
- ・実際に火事が起こったら、今日習ったバケツリレーで火を消したいです。